

## 第2章 店舗形態別価格

この章では、構造編の店舗形態別価格調査<sup>(注1)</sup>等から得た情報を基に特別集計した結果を用いて、第1節及び第2節では店舗形態別の価格水準、第3節では店舗形態別の価格分布の状況、第4節では店舗形態別の価格の動きについて、それぞれ解説する。

(注1) 構造編の店舗形態別価格調査は、スーパー・一般小売店・量販専門店などの店舗形態の違いによる価格の違いを把握するため、全国の道府県庁所在市(46市)において小売価格を調査している(東京都は、動向編において様々な店舗形態の価格が得られているため、構造編では調査を行っていない)。

調査品目は、比較対象となる各店舗形態において価格調査が可能な品目の中から、9品目を選定している。

集計においては、構造編の調査価格に加え、動向編で調査している全ての道府県庁所在市の店舗の価格も利用している。構造編の店舗形態別価格調査の調査店舗の選定は、比較対象となる各店舗形態が原則同数となるように行っている。例えば、食料品の場合、スーパーと一般小売店の価格差を比較することを目的として調査を行っており、動向編では主にスーパーを選定しているため、構造編では原則として一般小売店を選定している。

### 1 スーパーと一般小売店の比較

- ◆ うるち米、コロッケ及び清酒はスーパーの価格が低い
- ◆ 豚肉は一般小売店の価格が低い
- ◆ 2017年(平成29年)結果と比較すると、うるち米で価格水準の差が縮小

スーパーと一般小売店の価格差を比較することを目的として調査している4品目(うるち米<sup>(注2)</sup>、豚肉<sup>(注3)</sup>、コロッケ及び清酒)の年平均価格<sup>(注4)</sup>をみると、うるち米、コロッケ及び清酒は、スーパーの価格が低くなっている。一方、豚肉は一般小売店の価格が低くなっている。

また、スーパーの年平均価格を100として一般小売店の価格水準をみると、清酒(118.3)の水準の差が最も大きくなっている。

2017年(平成29年)結果と比較すると、コロッケ及び清酒では価格水準の差が拡大している。拡大した要因は、年平均価格について、コロッケは価格の高い一般小売店が上昇し、価格の低いスーパーについては変化がなかったことによる。清酒は、価格の高い一般小売店が上昇し、価格の低いスーパーについては下落したことによる。

一方、うるち米では価格水準の差が縮小している。縮小した要因は、年平均価格について、価格の低いスーパーの上昇率が、価格の高い一般小売店の上昇率を上回ったことによる。

(表2-1、図2-1)

(注2) うるち米は、単一原料米(コシヒカリ以外)を調査している。

(注3) 豚肉は、バラ(黒豚を除く)を調査している。

(注4) 全都道府県庁所在市(全47市、東京都については東京都区部)の年平均価格

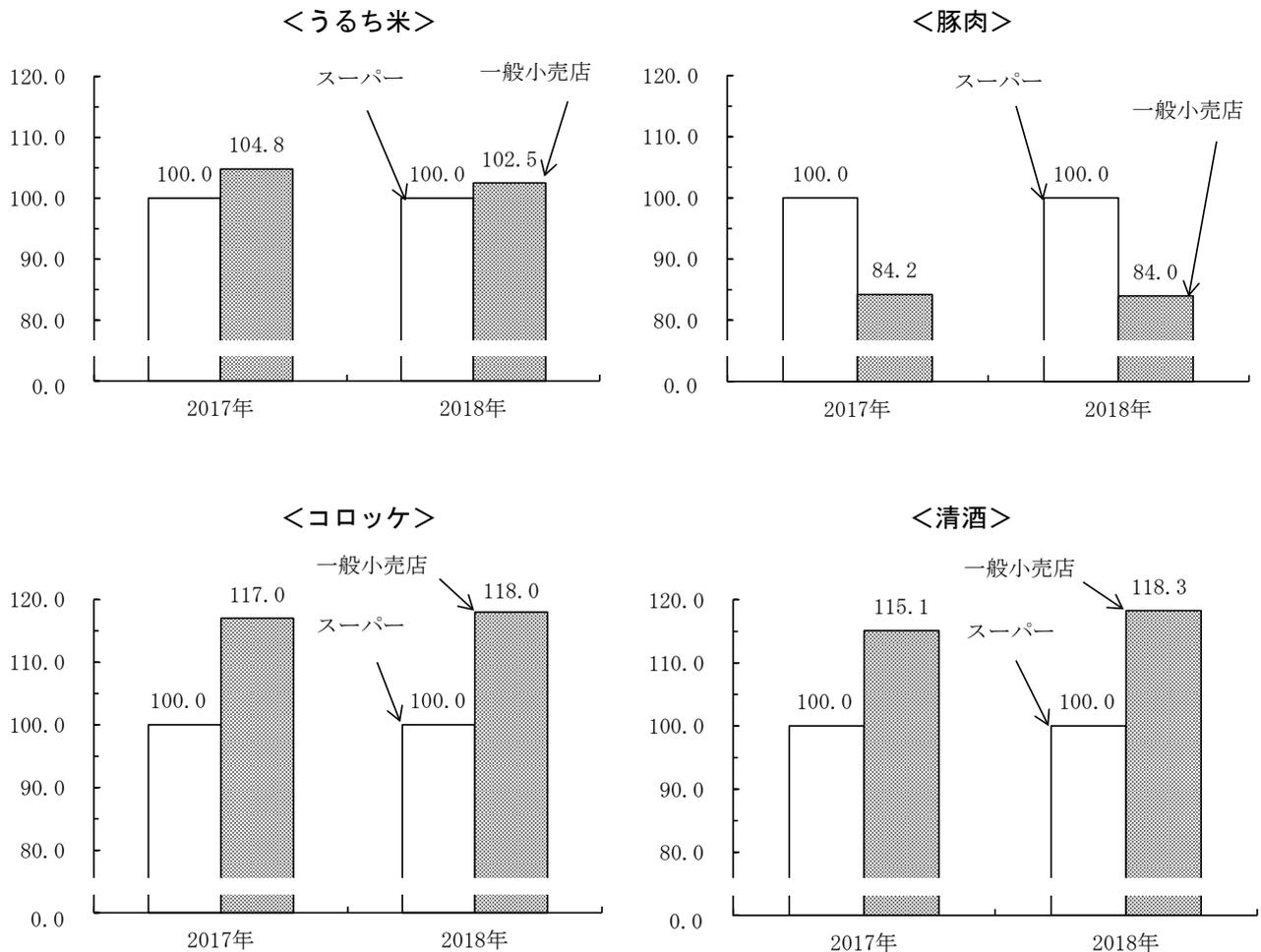
表 2-1 調査対象 4 品目の店舗形態別年平均価格及び価格水準

品目 (単位)	店舗形態	2018年			2017年			2017年との比較 (2018年-2017年)	
		年平均 価格 (円)	価格 水準 (注5)	価格水準 の差 (注6)	年平均 価格 (円)	価格 水準 (注5)	価格水準 の差 (注6)	年平均 価格の 変化 (円)	年平均 価格の 変化率 (%)
うるち米 (1袋(5kg))	スーパー	2,138	100.0	-2.5	2,026	100.0	-4.8	112	5.5
	一般小売店	2,192	102.5		2,124	104.8		68	3.2
豚肉 (100g)	スーパー	237	100.0	16.0	234	100.0	15.8	3	1.3
	一般小売店	199	84.0		197	84.2		2	1.0
コロッケ (100g)	スーパー	100	100.0	-18.0	100	100.0	-17.0	0	0.0
	一般小売店	118	118.0		117	117.0		1	0.9
清酒 (1本(2,000mL))	スーパー	994	100.0	-18.3	1,011	100.0	-15.1	-17	-1.7
	一般小売店	1,176	118.3		1,164	115.1		12	1.0

(注5) 価格水準は、各年のスーパーの年平均価格を100とした際の値

(注6) 価格水準の差=「スーパー」の価格水準-「一般小売店」の価格水準

図 2-1 調査対象 4 品目の店舗形態別価格水準 (スーパーの年平均価格=100)



## 2 スーパーと量販専門店の比較

- ◆ ラップはスーパーの価格が低い
- ◆ 洗濯用洗剤、ドリンク剤、整髪料及び生理用ナプキンは量販専門店の価格が低い
- ◆ 2017年（平成29年）結果と比較可能な4品目全てで価格水準の差が縮小

スーパーと量販専門店の価格差を比較することを目的として調査している5品目（ラップ、洗濯用洗剤、ドリンク剤、整髪料及び生理用ナプキン<sup>(注7)</sup>）の年平均価格をみると、ラップを除いて量販専門店の価格が低くなっている。

また、スーパーの年平均価格<sup>(注8)</sup>を100として量販専門店の価格水準をみると、ドリンク剤が91.7と最も水準の差が大きく、次いで整髪料（96.0）となっている。

2017年結果と比較可能な4品目（ラップ、洗濯用洗剤、ドリンク剤及び整髪料）全てで価格水準の差が縮小している。縮小した要因は、年平均価格について、ラップは価格の高い量販専門店の下落率が、価格の低いスーパーの下落率を上回ったことによる。また、洗濯用洗剤は価格の低い量販専門店の下落率が、価格の高いスーパーの下落率を下回ったことによる。さらに、ドリンク剤及び整髪料は、価格の高いスーパーが下落し、価格の低い量販専門店については上昇したことによる。

（表2-2、図2-2）

（注7）2018年に調査を開始した品目

（注8）全都道府県庁所在地（全47市、東京都については東京都区部）の年平均価格

表2-2 調査対象5品目の店舗形態別年平均価格及び価格水準

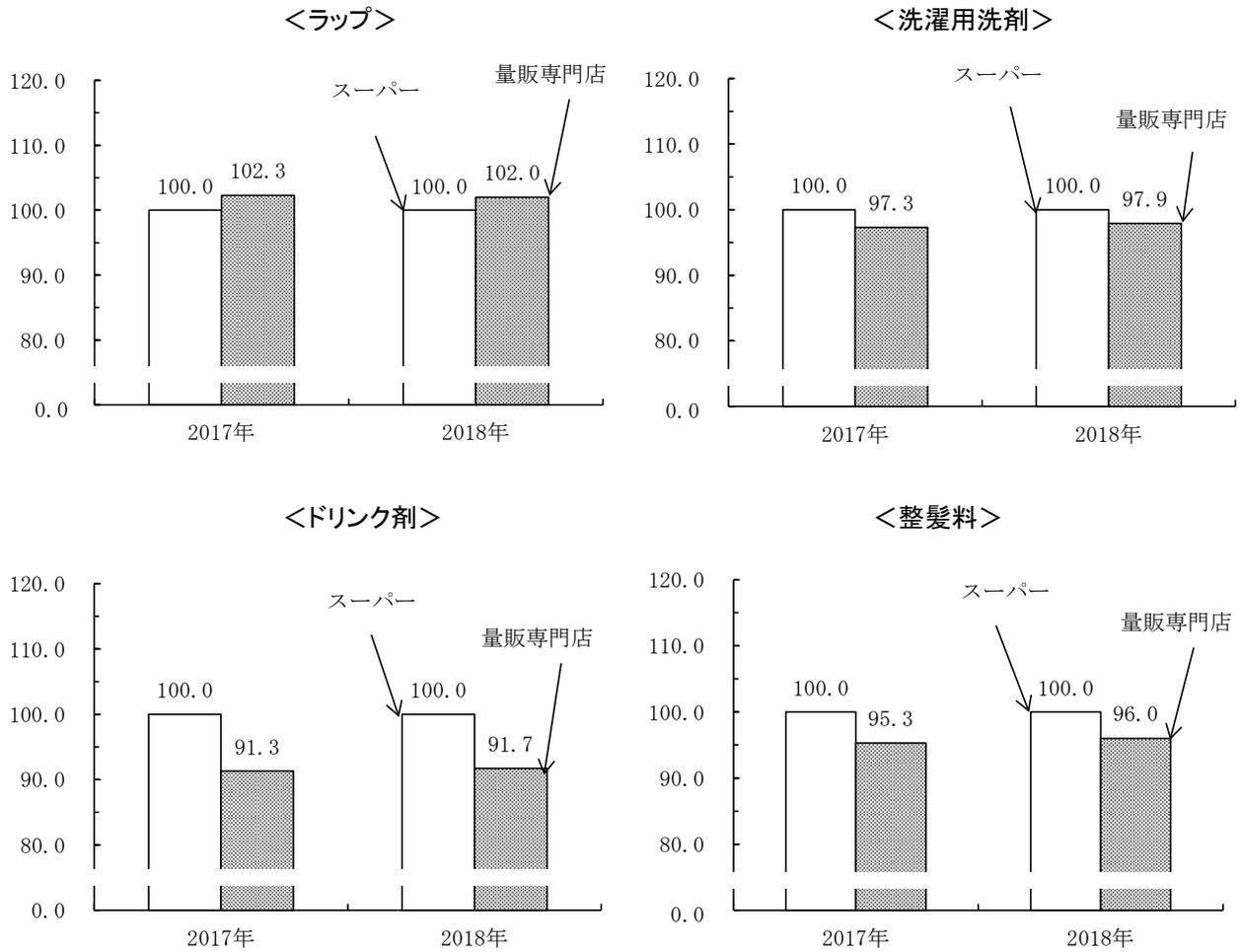
品目（単位）	店舗形態	2018年			2017年			2017年との比較 (2018年-2017年)	
		年平均 価格 (円)	価格 水準 (注9)	価格水準 の差 (注10)	年平均 価格 (円)	価格 水準 (注9)	価格水準 の差 (注10)	年平均 価格の 変化 (円)	年平均 価格の 変化率 (%)
ラップ (1本(幅22cm×長さ50m))	スーパー	300	100.0	-2.0	301	100.0	-2.3	-1	-0.3
	量販専門店	306	102.0		308	102.3		-2	-0.6
洗濯用洗剤 (1kg(液体))	スーパー	292	100.0	2.1	297	100.0	2.7	-5	-1.7
	量販専門店	286	97.9		289	97.3		-3	-1.0
ドリンク剤 (1箱(100mL×10本))	スーパー	1,089	100.0	8.3	1,093	100.0	8.7	-4	-0.4
	量販専門店	999	91.7		998	91.3		1	0.1
整髪料 (1個(80g))	スーパー	723	100.0	4.0	726	100.0	4.7	-3	-0.4
	量販専門店	694	96.0		692	95.3		2	0.3
生理用ナプキン (昼用, 10個)	スーパー	169	100.0	0.6	-	-	-	-	-
	量販専門店	168	99.4		-	-		-	-

※ 2018年調査開始品目は、2017年における当該数値がないため、「-」としている。

（注9）価格水準は、各年のスーパーの年平均価格を100とした際の値

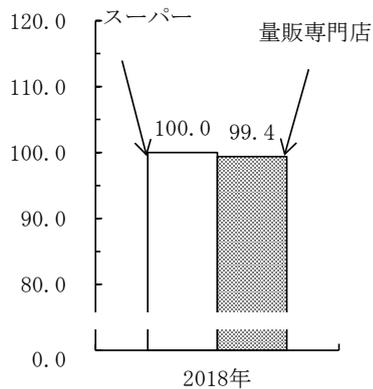
（注10）価格水準の差＝「スーパー」の価格水準－「量販専門店」の価格水準

図 2-2 調査対象 5 品目の店舗形態別価格水準（スーパーの年平均価格=100）



(2018年調査開始品目)

＜生理用ナプキン＞



### 3 価格分布の状況について

ここでは、2018年（平成30年）に調査した店舗の価格情報を利用して価格分布（10%点、25%点、50%点、75%点及び90%点）及びその他の統計量（「(参考)用語の説明」187ページを参照）に関する特別集計の結果について紹介する。

なお、年の途中で銘柄改正を行った場合は、改正月以降の月に限定して集計している。

#### (1) スーパーと一般小売店の比較

- ◆ うるち米、コロッケ及び清酒は、スーパーに比べ一般小売店の価格の広がりが大きい
- ◆ コロッケは、スーパー、一般小売店共に価格の散らばり度合いが最も大きい

スーパーと一般小売店の比較を目的とした4品目について、それぞれ店舗形態別に10%点、25%点、50%点、75%点、90%点の価格を比較することにより、店舗形態別の価格分布の状況を見る。

うるち米は、10%点では同価格、25%点ではスーパーの価格が高くなっているが、それ以外のいずれの%点においても一般小売店の価格がスーパーの価格よりも高くなっている。

豚肉は、いずれの%点においても一般小売店の価格がスーパーの価格よりも低くなっている。

コロッケ及び清酒は、いずれの%点においても一般小売店の価格がスーパーの価格よりも高くなっている。

次に、四分位範囲により価格の広がりをみると、豚肉以外の品目において、スーパーに比べ一般小売店が大きくなっている。

(表2-3, 図2-3)

さらに、四分位分散係数により価格の散らばり度合いをみると、スーパーでは、豚肉及びコロッケが大きく、うるち米及び清酒が小さくなっている。一般小売店では、コロッケが最も大きく、うるち米が最も小さくなっている。

(表2-3, 図2-4)

表2-3 調査対象4品目の店舗形態別価格分布に関する統計量

	うるち米 (単位：1袋)		豚肉 (単位：100g)		コロッケ (単位：100g)		清酒 (単位：1本)	
	スーパー	一般小売店	スーパー	一般小売店	スーパー	一般小売店	スーパー	一般小売店
価格数	1,745	1,126	1,741	1,150	1,745	1,136	1,068	797
平均価格(円)	2,159	2,199	236	199	101	119	998	1,164
90%点(円)	2,462	2,550	278	257	127	159	1,077	1,419
75%点(円)	2,247	2,360	258	216	112	137	1,034	1,300
50%点(円)	2,138	2,185	235	195	101	115	969	1,166
25%点(円)	2,030	2,000	213	173	92	97	939	1,021
10%点(円)	1,890	1,890	199	151	71	81	915	929
四分位範囲(円)	217	360	45	43	20	40	95	279
四分位分散係数	0.05	0.08	0.10	0.11	0.10	0.17	0.05	0.12

※ 各統計量の算出方法は、後述の「(参考)用語の説明」を参照。

※ 特別集計における平均価格は、2018年（平成30年）の偶数月に調査した店舗の価格を単純算術平均したものである。そのため、店舗形態別価格調査の統計表に掲載されている年平均価格とは必ずしも一致しない。

図 2-3 調査対象 4 品目の店舗形態別価格分布図

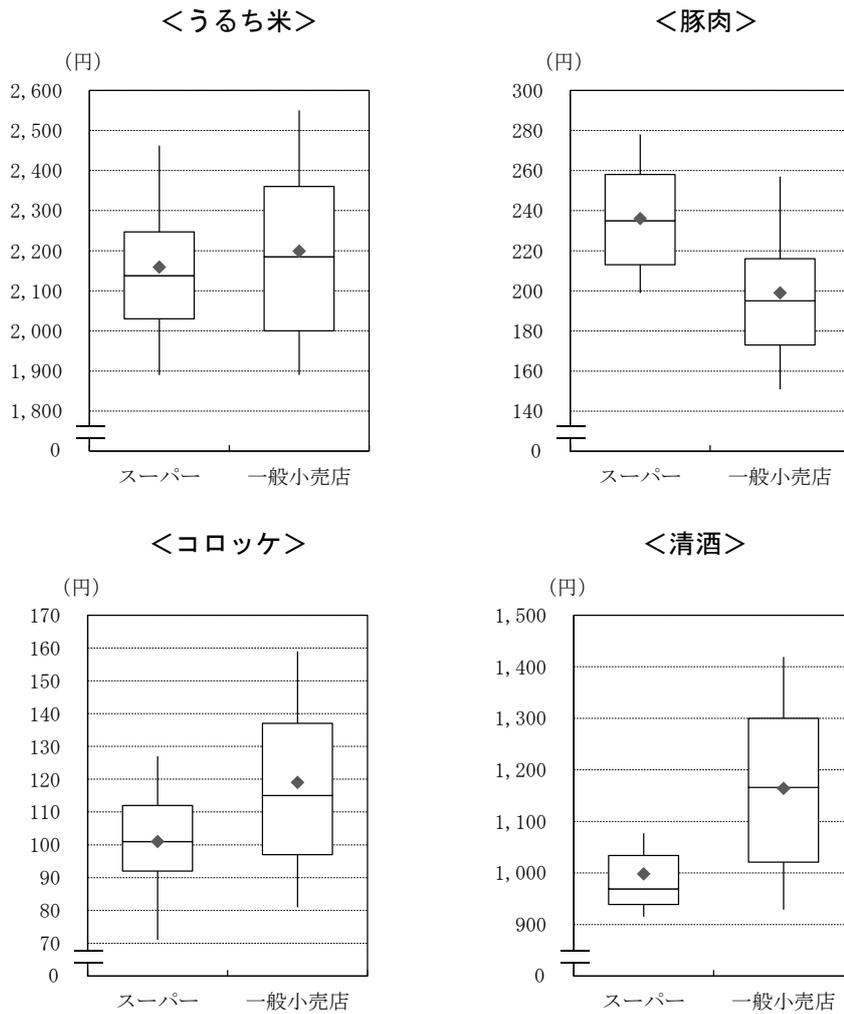
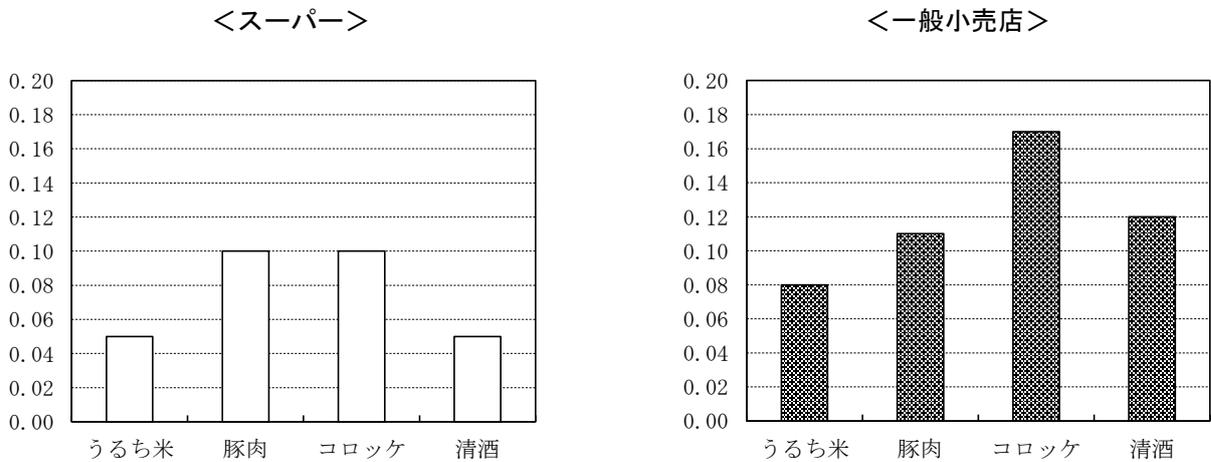


図 2-4 調査対象 4 品目の店舗形態別価格の散らばり度合い (四分位分散係数)



## (2) スーパーと量販専門店の比較

- ◆ 生理用ナプキンは、スーパーに比べ量販専門店の価格の広がりが大きい
- ◆ 洗濯用洗剤は、スーパー、量販専門店共に価格の散らばり度合いが最も大きい

次に、スーパーと量販専門店の比較を目的とした5品目について、店舗形態別の価格分布の状況を見る。

ラップは、90%点を除いては、スーパーに比べ量販専門店の価格が高くなっている。

洗濯用洗剤は、25%点及び50%点の価格がスーパーと量販専門店とで一致しているなど、似た分布状況となっている。

ドリンク剤は、いずれの%点においてもスーパーに比べ量販専門店の価格が低くなっている。

整髪料は、90%点を除いては、スーパーに比べ量販専門店の価格が低くなっている。

生理用ナプキンは、10%点ではスーパーと量販専門店の価格が一致しているが、25%点及び50%点ではスーパーに比べ量販専門店の価格が低く、反対に、75%点及び90%点では量販専門店の価格が高くなっている。

次に、四分位範囲により価格の広がりをみると、生理用ナプキンについてはスーパーに比べ量販専門店が大きく、それ以外の品目についてはスーパーに比べ量販専門店が小さくなっている。

(表2-4, 図2-5)

さらに、四分位分散係数により価格の散らばり度合いをみると、スーパー、量販専門店共に、洗濯用洗剤が最も大きく、ドリンク剤が最も小さくなっている。

(表2-4, 図2-6)

表2-4 調査対象5品目の店舗形態別価格分布に関する統計量

	ラップ (単位: 1本)		洗濯用洗剤 (単位: 1kg)		ドリンク剤 (単位: 1箱)		整髪料 (単位: 1個)		生理用ナプキン (単位: 10個)	
	スーパー	量販 専門店	スーパー	量販 専門店	スーパー	量販 専門店	スーパー	量販 専門店	スーパー	量販 専門店
価格数	1,544	1,345	513	458	940	921	967	968	1,514	1,375
平均価格(円)	299	306	291	288	1,087	998	722	691	170	169
90%点(円)	354	348	362	371	1,214	1,058	820	820	188	199
75%点(円)	311	321	334	328	1,111	1,027	807	718	183	184
50%点(円)	291	300	277	277	1,058	1,002	718	710	173	170
25%点(円)	276	289	249	249	1,026	980	665	644	161	156
10%点(円)	267	268	235	231	968	924	645	598	146	146
四分位範囲(円)	35	32	85	79	85	47	142	74	22	28
四分位分散係数	0.06	0.05	0.15	0.14	0.04	0.02	0.10	0.05	0.06	0.08

※ 各統計量の算出方法は、後述の「(参考)用語の説明」を参照。

※ 特別集計における平均価格は、2018年(平成30年)の偶数月に調査した店舗の価格を単純算術平均したものである。そのため、店舗形態別価格調査の統計表に掲載されている年平均価格とは必ずしも一致しない。

図 2-5 調査対象 5 品目の店舗形態別価格分布図

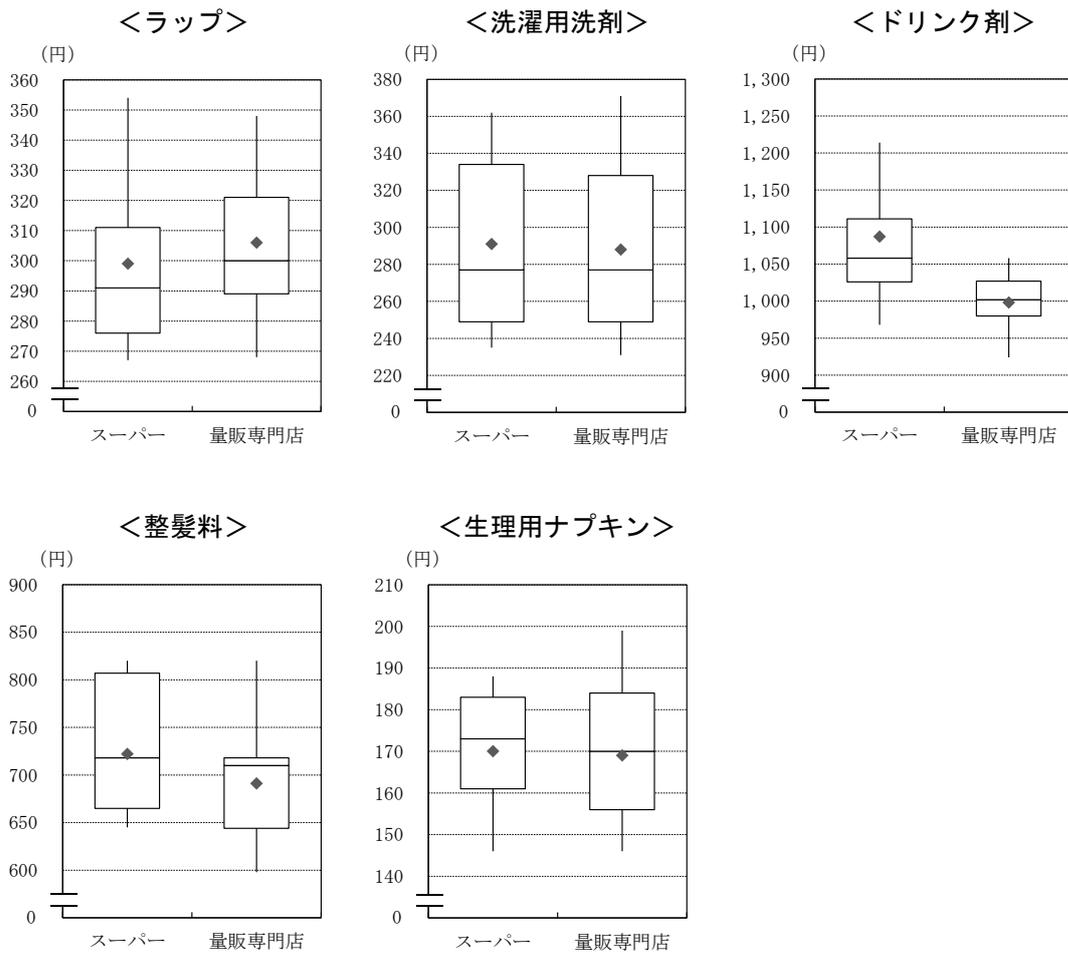
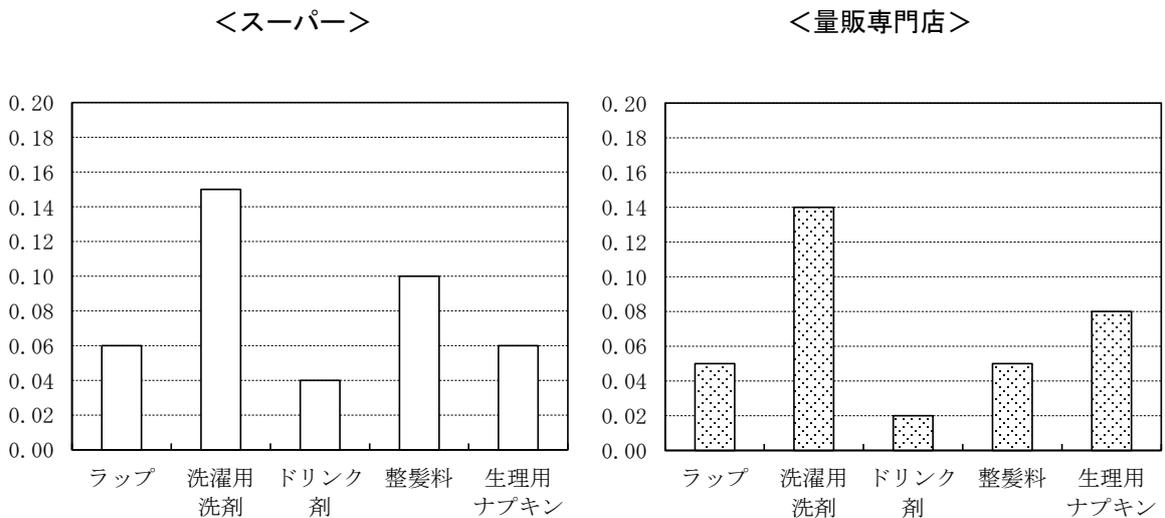


図 2-6 調査対象 5 品目の店舗形態別価格の散らばり度合い (四分位分散係数)



## (参考) 用語の説明

### (1) 各統計量について

#### ・ %点

調査された店舗の価格を価格の低い方から並べ、低い方から数えて25%、50%、75%に当たる点を25%点、50%点、75%点として求めている。25%点は第1四分位点、50%点は第2四分位点、75%点は第3四分位点という。

なお、今回の集計では、分布の全体的な状況を把握するため、10%点、90%点も求めている。

#### ・ 四分位範囲

75%点（第3四分位点）と25%点（第1四分位点）の差をいう。

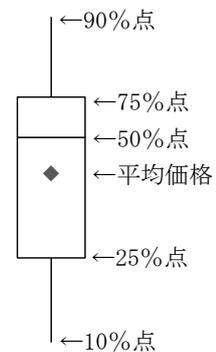
#### ・ 四分位分散係数

四分位範囲の2分の1を求め、それを50%点で除した値。これにより、価格の散らばり度合いを品目間で比較することが可能となる。

### (2) 価格分布図（右図）

平均価格や各%点の水準を視覚的に表したもの。価格の広がり、四分位範囲をみることで把握することができ、この差が小さければ価格の広がりが小さく、大きければ価格の広がりが大きいといえる。

なお、これらの点のうち、二つ又はそれ以上の点が一致することもあり得る。



#### 4 店舗形態別の価格の動き

ここでは、各調査品目について、2014年2月<sup>(注11)</sup>のスーパーの平均価格(全都道府県庁所在市の平均価格)を100として、そこから2018年12月までの期間について、各調査月(偶数月(2月, 4月, 6月, 8月, 10月及び12月))の平均価格を指数化し、直近5年分の店舗形態別の価格の動きを確認する。

##### (1) スーパーと一般小売店の比較

うるち米は、スーパー、一般小売店共に、2015年中頃まで下落傾向にあるが、その後は上昇傾向となっている。また、価格水準差<sup>(注12)</sup>をみると、2015年8月までは拡大傾向にあったが、その後は縮小傾向となっている。

豚肉は、スーパーについては2015年6月、一般小売店については2015年2月からほぼ横ばいで推移している。また、価格水準差をみると、2015年12月のピーク以降、ほぼ横ばいで推移している。

コロッケは、スーパー、一般小売店共に、緩やかな上昇傾向となっている。また、価格水準差をみると、2015年から2016年にかけてやや縮小しているが、2017年に入ると拡大し、その後、ほぼ横ばいで推移している。

清酒は、スーパーについては、2017年6月のピーク以降、下落傾向となっているが、一般小売店については、2017年4月の下落以降、緩やかな上昇傾向となっている。また、価格水準差をみると、2017年6月まで縮小しているが、その後、拡大傾向となっている。

(図2-7)

(注11)「清酒」,「ラップ」及び「整髪料」は2017年2月,「生理用ナプキン」は2018年2月

(注12) 価格水準差=「一般小売店」の価格水準-「スーパー」の価格水準

図2-7 調査対象4品目の店舗形態別価格の動き

<うるち米>

(2014年2月のスーパーの平均価格=100)

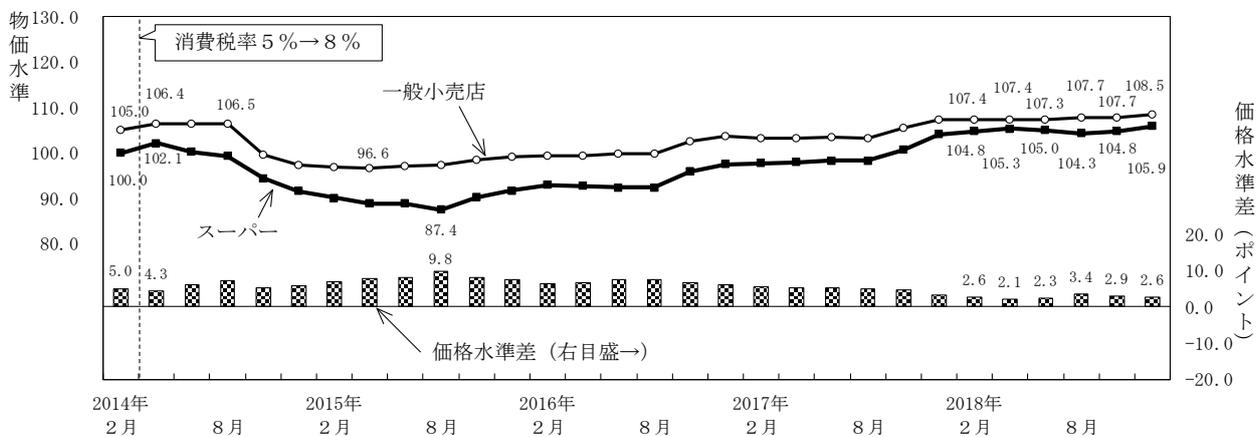
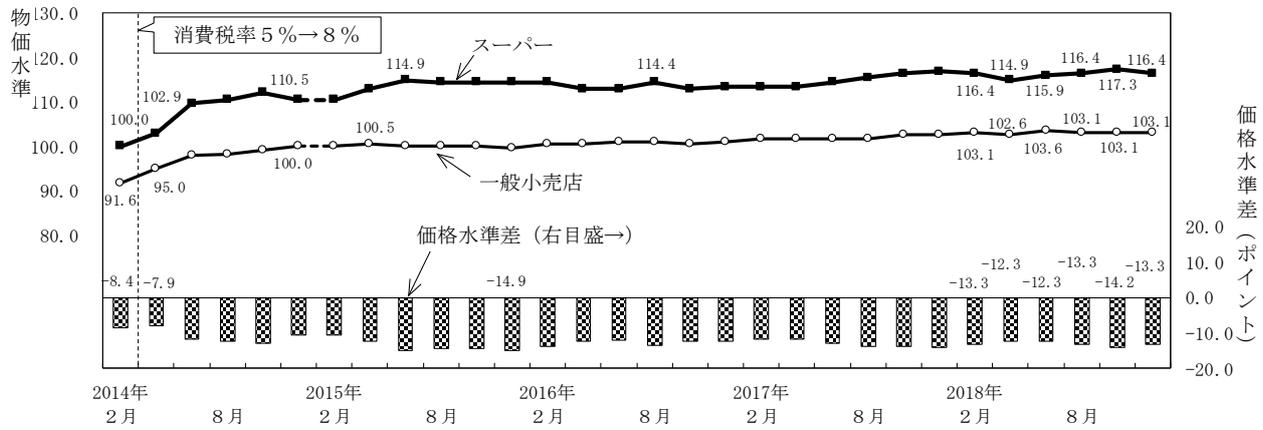


図2-7 調査対象4品目の店舗形態別価格の動き (続き)

<豚肉>

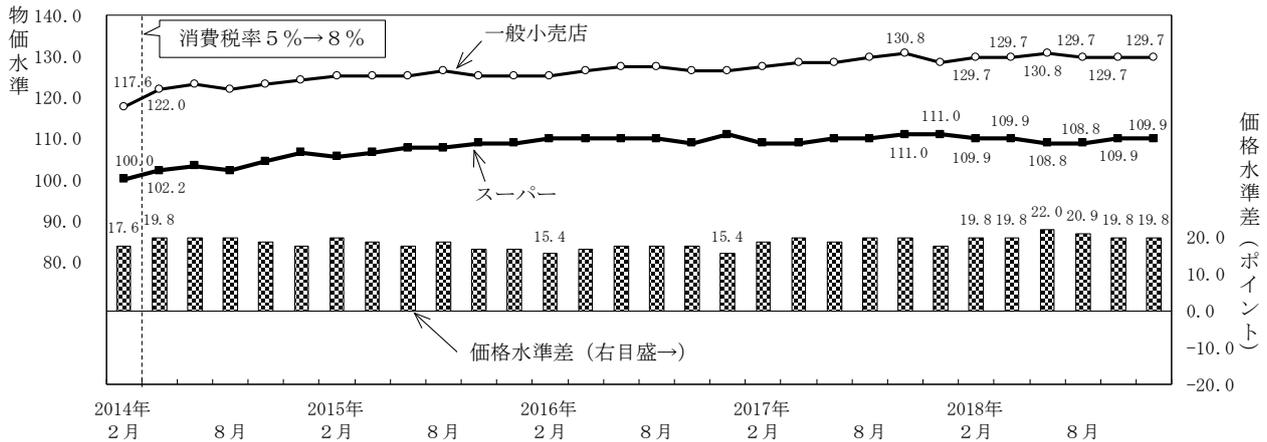
(2014年2月のスーパーの平均価格=100)



※ グラフ上の破線(---)は、対象期間に実施した銘柄改正のうち、旧銘柄と新銘柄で明確な品質差が存在したため、前々月と同指数(保合)として接続していることを表している。

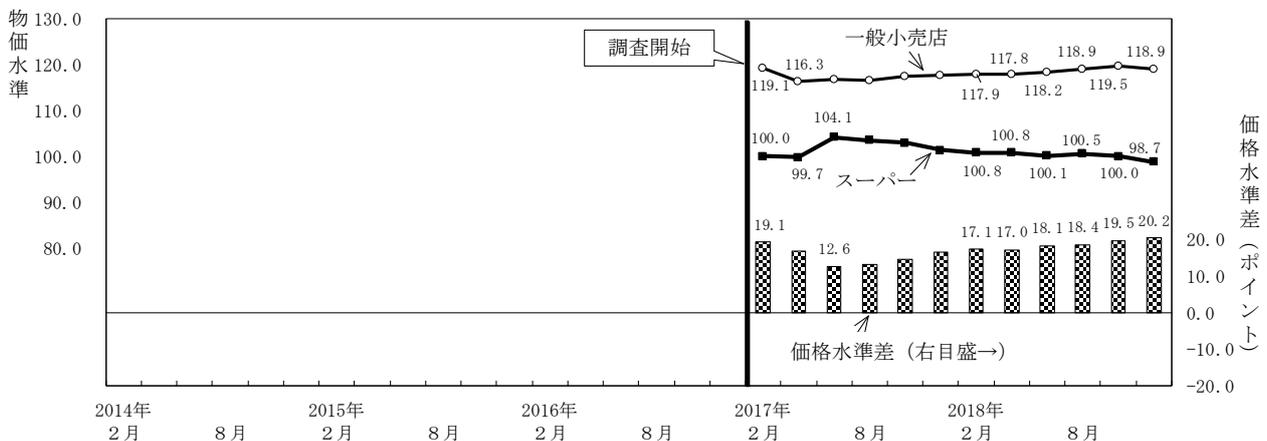
<コロッケ>

(2014年2月のスーパーの平均価格=100)



<清酒>

(2017年2月のスーパーの平均価格=100)



## (2) スーパーと量販専門店の比較

ラップは、スーパー、量販専門店共に、小幅な変動はあるものの、ほぼ横ばいで推移している。また、価格水準差<sup>(注13)</sup>をみると、価格の動きと同様に、ほぼ横ばいで推移している。

洗濯用洗剤は、スーパー、量販専門店共に、下降傾向となっている。また、価格水準差をみると、2015年12月に-3.7ポイント<sup>(注14)</sup>とやや拡大する傾向がみられたものの、その他の期間では比較的低い水準で推移している。

ドリンク剤は、スーパー、量販専門店共に、税率改正時の価格の上昇を除くと、ほぼ横ばいで推移している。また、価格水準差をみると、価格の動きと同様に、ほぼ横ばいで推移している。

整髪料は、スーパー、量販専門店共に、ほぼ横ばいで推移している。また、価格水準差をみると、価格の動きと同様に、ほぼ横ばいで推移している。

生理用ナプキンは、スーパー、量販専門店共に、上昇傾向となっている。また、価格水準差をみると、非常に低い水準で推移している。

(図2-8)

(注13) 価格水準差=「量販専門店」の価格水準-「スーパー」の価格水準

(注14) マイナスの場合は、絶対値での最大値とする。

図2-8 調査対象5品目の店舗形態別価格の動き

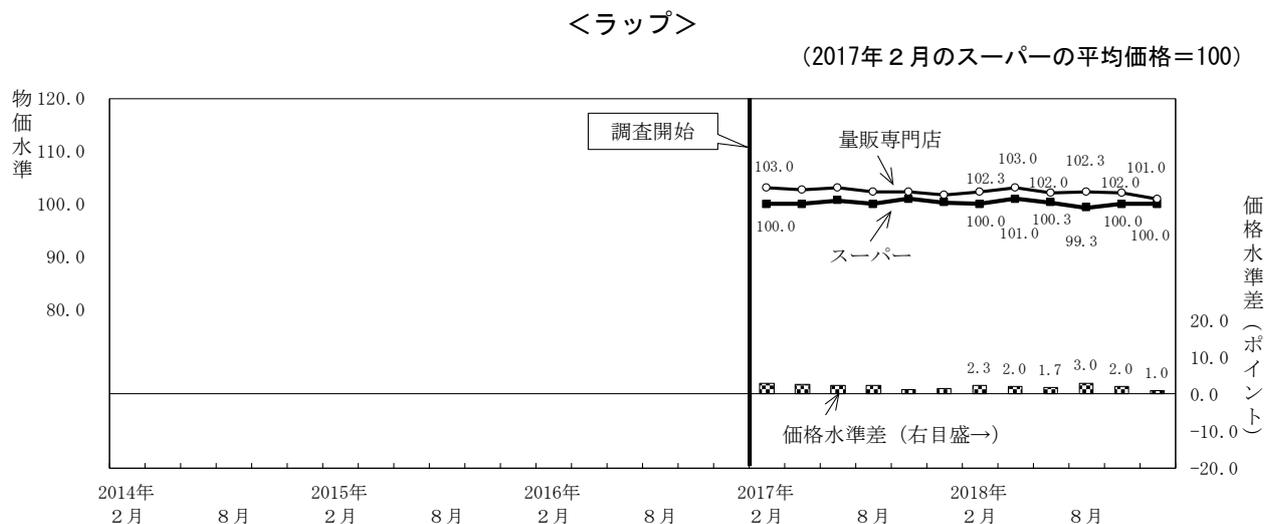
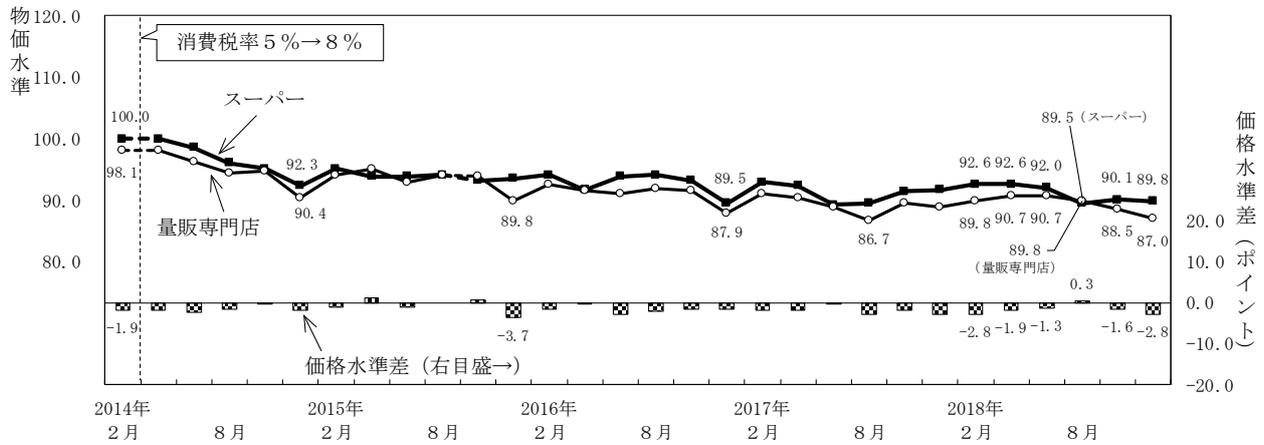


図2-8 調査対象5品目の店舗形態別価格の動き (続き)

<洗濯用洗剤>

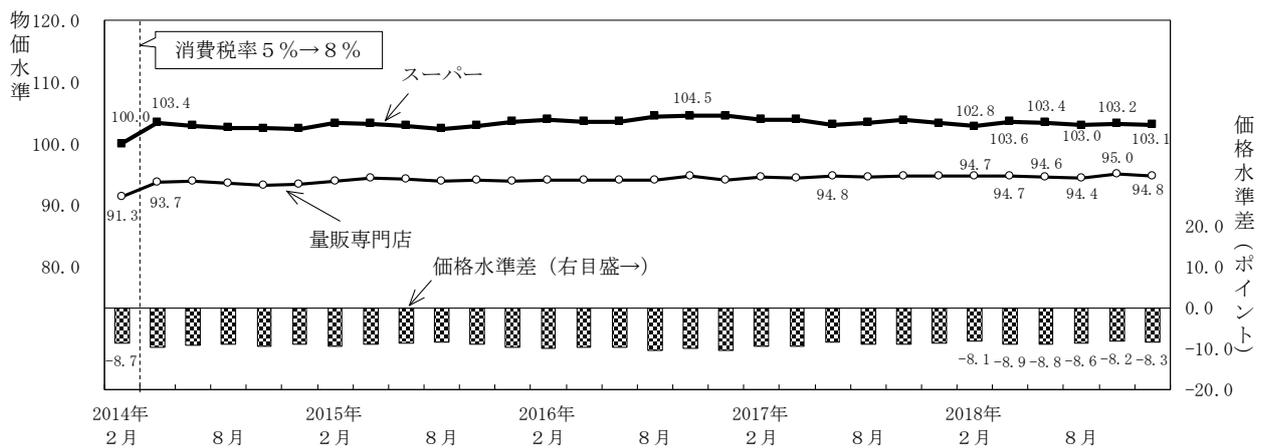
(2014年2月のスーパーの平均価格=100)



※ グラフ上の破線(---)は、対象期間に実施した銘柄改正のうち、旧銘柄と新銘柄で明確な品質差が存在したため、前々月と同指数(保合)として接続していることを表している。

<ドリンク剤>

(2014年2月のスーパーの平均価格=100)



<整髪料>

(2017年2月のスーパーの平均価格=100)

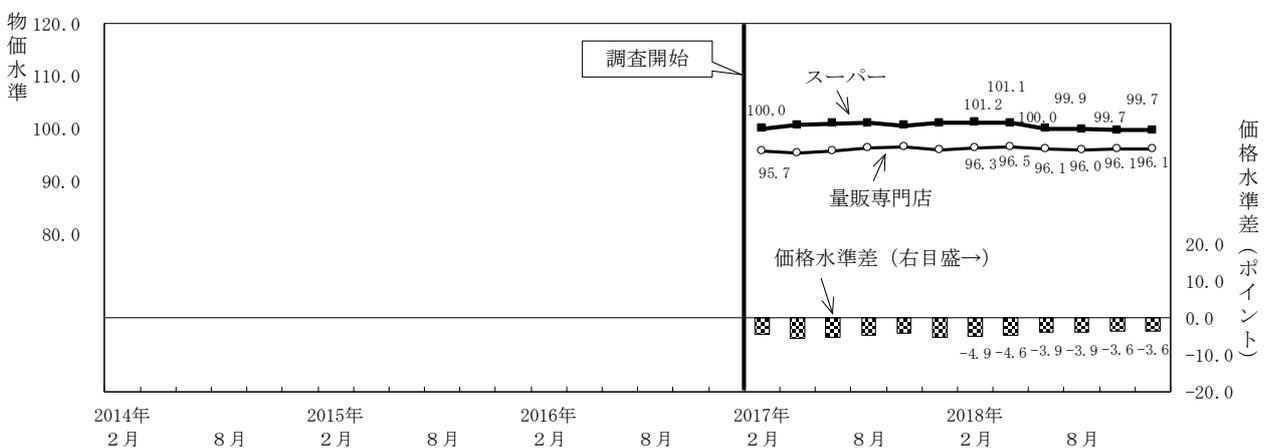
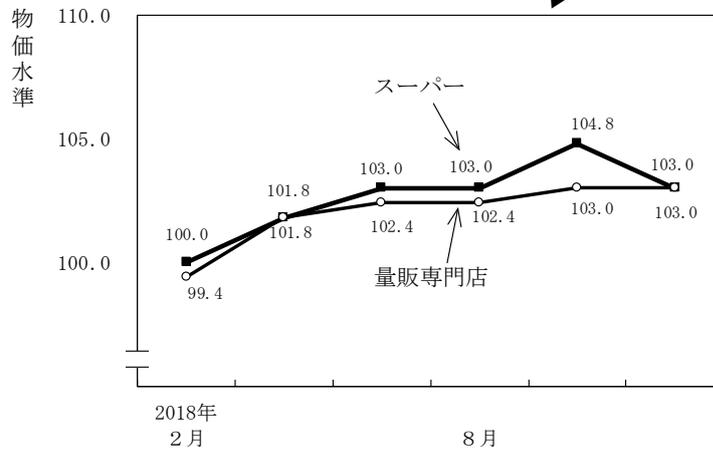
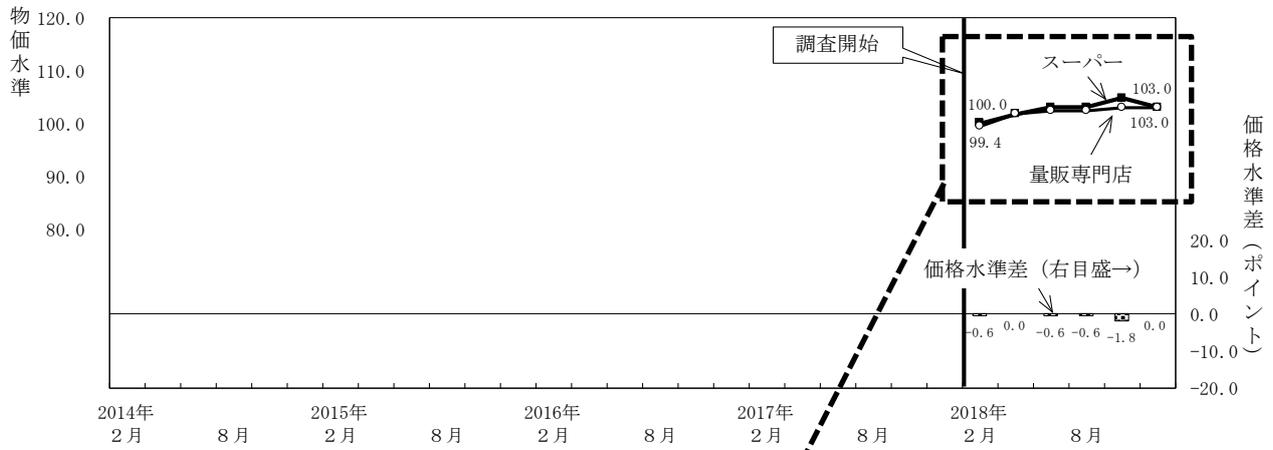


図2-8 調査対象5品目の店舗形態別価格の動き（続き）

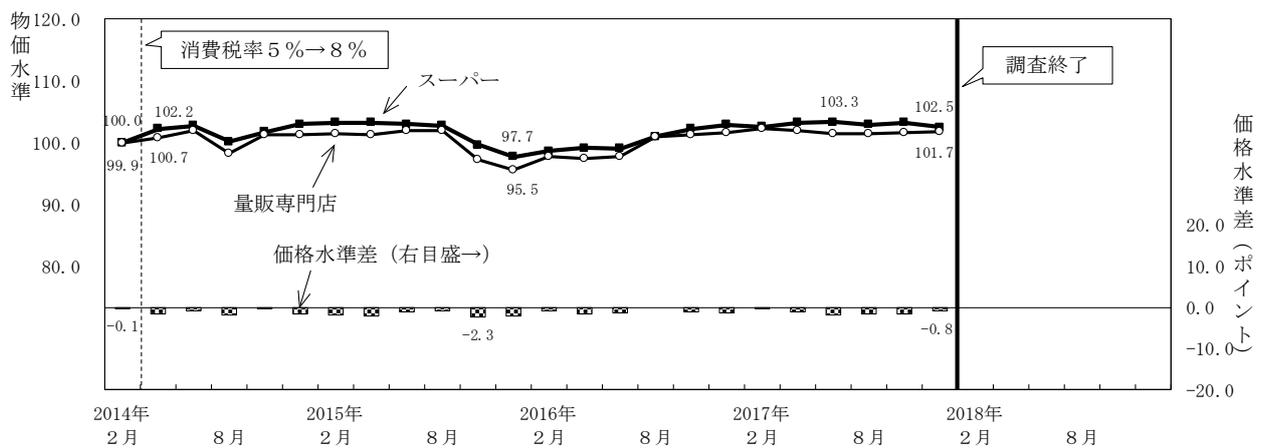
＜生理用ナプキン＞

（2018年2月のスーパーの平均価格＝100）



（参考）＜紙おむつ＞

（2014年2月のスーパーの平均価格＝100）



※ 2017年12月に「紙おむつ」の調査を終了し、翌年2月から同じ中分類（保健医療用品・器具）の「生理用ナプキン」を調査している。